

平成23年9月定例会会議録（第2号）

平成23年9月6日 火曜日 午前10時00分開議

蒲 生 光 男 議 長 安 部 隆 副議長

出 席 議 員 （ 1 6 名 ）

1 番	赤 間 泰 広	議 員	2 番	梅 津 善 之	議 員
3 番	江 口 忠 博	議 員	4 番	今 泉 春 江	議 員
5 番	小 関 秀 一	議 員	6 番	竹 田 博 一	議 員
7 番	我 妻 昇	議 員	8 番	大 道 寺 信	議 員
9 番	町 田 義 昭	議 員	1 0 番	佐 々 木 謙 二	議 員
1 1 番	安 部 隆	議 員	1 2 番	渋 谷 佐 輔	議 員
1 3 番	高 橋 孝 夫	議 員	1 4 番	大 沼 久	議 員
1 5 番	小 関 勝 助	議 員	1 6 番	蒲 生 光 男	議 員

欠 席 議 員 （ 0 名 ）

+

説 明 の た め 出 席 し た 者

内 谷 重 治	市 長	新 野 潔	副 市 長
飯 澤 常 雄	総務課長兼選挙管	平 英 一	財 政 課 長
谷 澤 秀 一	理委員会事務局長	松 木 英 司	税 務 課 長
宇津木 正 紀	企画調整課補佐	松 木 幸 嗣	健 康 課 長
小 泉 良 一	市 民 課 長	種 村 正 一	子 育 て 支 援 課 長
遠 藤 正 明	福祉生活あんしん課長	堀 越 俊 一 郎	監 査 委 員
加 藤 弘 二	会計管理者兼会計課長	大 滝 昌 利	教 育 長
遠 藤 誠 一	教育委員 長	鈴 木 榮 一	農 業 委 員 会 会 長
那 須 宗 一	選挙管理委員会委員長	齋 藤 理 喜 夫	商 工 振 興 課 長
平 正 行	農 林 課 長	松 木 茂	建 設 課 長
浅 野 敏 明	観 光 振 興 課 長	鈴 木 要 一 郎	上 下 水 道 課 長
鈴 木 一 則	まち・住まい整備課長	中 井 晃	文 化 生 涯 学 習 課 長
佐 藤 孝 博	管 理 課 長	齋 藤 環 樹	学 校 給 食 共 同 調 理 場 長
青 木 邦 彦	生涯スポーツ課長	渡 部 政 明	農 業 委 員 会 事 務 局 長
	監査委員事務局長		

+

鈴木 智 消防主幹

事務局職員出席者

松本 弘 議会事務局長
鈴木 和夫 議事調査係長
寒河江 新一 補佐
高橋 由美 主任

議事日程（第2号）

平成23年9月6日 火曜日 午前10時00分開議

- 日程第 1 市政一般に関する質問
- 4番 今泉春江 議員
 - 15番 小関勝助 議員
 - 1番 赤間泰広 議員
 - 3番 江口忠博 議員
 - 11番 安部 隆 議員

本日の会議に付した事件

十 議事日程（第2号）に同じ

+

+

開 議

○蒲生光男議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員はございません。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

なお、遠藤健司企画調整課長が欠席のため、谷澤秀一企画調整課補佐が出席しておりますので、ご報告いたします。

本日の会議は、配付しております議事日程第2号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○蒲生光男議長 日程第1、市政一般に関する質問を行います。

質問の時間は、答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、順次ご指名いたします。

今泉春江議員の質問

○蒲生光男議長 順位1番、議席番号4番、今泉春江議員。

(4番今泉春江議員登壇)

○4番 今泉春江議員 皆様、おはようございます。日本共産党の今泉春江でございます。

私は、市民の声を市政に届け、暮らしと福祉、防災最優先の市政実現を市民の皆様にお約束してまいりました。この立場から、原発からの撤

退と放射能から市民を守る市政についてと高過ぎる国保税を引き下げることの2点で質問いたします。

まず、原発からの撤退を目指し、放射能から市民を守る市政についてお尋ねします。

原発は今まで安全と政府も電力会社もずっと言い続けてまいりました。共産党は、もともとから危険性を指摘してきましたが、今回の福島原発事故が、安全どころか、いかに危険で恐ろしいものかを事実で証明しました。福島原発事故は、5カ月たった今でも収束しておらず、被害が広がる一方で、今後どんな危険をもたらすか予測すらできません。

原発は核燃料を燃やして電力をつくる装置ですが、そもそも現在の原発の技術は未完成で、冷却水のコントロールがきかなくなれば大事故を起こします。また、核燃料を燃やす過程で必ず出る放射能を完全に閉じ込めておく技術が完成していません。さらに本質的な問題として、莫大な使用済み核燃料を処理する技術を持っていません。まさにトイレのないマンションです。このため、一たび放射能が放出されれば、その被害は深刻で広範囲にわたり、時間的にも放射能の危険がなくなるまで数万年から1,000万年もかかるとされており、飛行機や列車などの事故とは質的に全く異なった危険をもたらします。

この原発が、有数の地震・津波国である日本に54カ所も置かれており、しかも福島だけでなく、近くには新潟の柏崎刈羽原発があり、ここで事故が起こった場合には、長井市などは福島原発以上の危険にさらされる可能性があり、他人事ではありません。

こうした事実を考えれば、安全神話をきっぱりと断ち切って、原発から速やかに撤退し、電力は自然エネルギーで生み出す方向に大転換すべきと考えます。

そこで、第一に市長にお聞きしたいのは、この原発にかかわって、小学館発行の雑誌「SA